

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名
大崎上島まちおこしリノベーションプロジェクト
実施日
令和 4 年 6 月 1 日（水）～ 令和 5 年 3 月 31 日（金）
実施場所
広島県大崎上島町 旧警察官舎
企画代表者の氏名、所属
氏名：西岡航生 所属：工学部第四類（建設・環境系）
構成員の氏名
植田詠人、十河臣吾、茶川祐弥、西岡航生、山田紘平、渡邊美奈、佐々木友子、若槻瑠実 糸島隆文、福江航太、松本陸人、焦子鈺、榎優志、中野瑞希
指導的立場の教員氏名
角倉英明 准教授（大学院先進理工系科学研究科 建築学プログラム）
企画の目的及び内容
○目的 本企画は、現在使われなくなってしまった大崎上島町の旧警察官舎におけるリノベーションプロジェクトであり、建物の改修から使い方の提案までを、学生が主体となっていくことを目的とする。 実際のプロジェクトを企画・運営してものづくりを行うことは、学生にとって、大学の授業だけでは得られない貴重な経験になる。さらに本企画は、大崎上島町や地場の工務店、地域住民と協力して実行する計画であり、建築を通じたまちおこしにつながる活動として期待できる。 ○内容 本プロジェクトは、今後数年間かけて取り組む予定であり、本企画はその第一弾にあたる。今期は、建物の現状把握、プロジェクト全体の企画・立案を行い、改修に着手する。具体的には、次の内容に取り組む。 ① 既存建物の実測、構造補強の必要な個所の検討 ② 建物の改修方法・使い方の検討（フィールドワークを含む） ③ 地域住民を交えたワークショップ ④ 改修の実行 基本的には学生が主体となっていくが、より高い専門知識を要する構造計算などについては、地場の工務店との協力により実現する。また建物の改修方法や使い方は、フィールドワークや周辺住民とのワークショップを通じて決定する。
来場者数
研究室他活動参加者、地域住民等 7 名
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）
本企画は、大崎上島町と、建築学プログラム 都市・建築計画学研究室（角倉・石垣ゼミ）による共同プロジェクトである。

活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）

① 6月～9月 情報収集・挨拶回り

プロジェクト開始にあたり、大崎上島町の歴史と現状、計画敷地の位置づけなどのリサーチとして、住民への挨拶回りと並行して島歩きやインタビューなどを行った。また、その間にポスター制作や SNS での発信を行い、プロジェクトの繋がりを増やす試みを行った。さらに写真にある看板を制作し、本計画地を通り過ぎる住人に向けた PR 活動を開始した。



② 10月～12月 計画案の構想・コンペ実施

リサーチで収集した情報を元に、本プロジェクトのコンセプトを作成し、具体的な計画を構想した。「学びが生まれ続ける建築」をテーマとし、教育の島に合う施設計画を3チームに分かれて作成した。



③ 1月～3月 コンペ講評会・改修作業開始

2月中旬にコンペ講評会を実施した。町役場の担当者の方も審査に加わり、3案について公表いただいた。各チームの提案を参考に、改修方針についてまとめた。

3月より、実際に1階東側の部屋の改修を始める予定である。



「学生のおもしろ企画・大学祭企画」 実施報告書 (裏面)

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

成果・課題

<成果>

約半年間のフィールドリサーチを通じて島内でのつながりをつくることができた。また、コンペでは、案出しをしたことで改修用途や具体的な運営システムについて方針をまとめることができた。

町役場との共同プロジェクトでもあり、コンペ講評会に参加いただけたことで、学生と役場の意見交換ができたことも、来年度へ向けた大きな収穫となった。

<課題>

来年度より、本格的な改修作業を始めるが、それに合わせて専門的な技術レクチャーのための講師や、改修に必要な人手を集める等、研究室以外の人との作業機会が増える。本年度は、SNSの開設、ブログでの情報発信をスタートさせたが、活動のPRでとどまってしまった。今後はより具体的な活動進捗や情報を提供し、広報活動を積極的に行っていききたい。

実施風景（写真）



【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学系総括支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)